

船舶事故調査報告書

平成29年2月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年10月18日 09時00分ごろ
発生場所	愛媛県松山市興居島頭埼南東方沖 頭埼灯台から真方位140° 950m付近 (概位 北緯33° 55.2′ 東経132° 42.5′)
事故の概要	プレジャーボート大隼丸は、南南西進中、また、プレジャーボート洋心丸は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年10月26日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 大隼丸、1.4トン EH3-25465（漁船登録番号）、個人所有 第281-27415号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 洋心丸、0.5トン 281-41135愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部外板にペイント剥離 B 右舷中央部外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風速 約0.9m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期、潮流 北東流約1.5ノット
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、友人1人を乗せ、潮上りの目的で、頭埼南東方沖を約20km/hの対地速力で、手動操舵により南南西進していた。 船長Aは、周囲に約50隻の釣り船が存在していたが、GPSプロッターに記録していた釣りのポイントを表示させた同プロッター画面を見ながら潮上りを続けた。 A船は、船長AがB船を視認し、右舵一杯を取ると同時に機関を停止したが、B船に衝突した。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、頭埼南東方沖で漂流して釣りを行っていた。 船長Bは、これまで潮上りする他船が漂流中のB船を避けてくれたので、今回も他船が避けてくれるものと思い、釣りに夢中になっていた。 船長Bは、後方を見たとき、接近するA船を認め、手すりにつかま

	って身構えたところ、衝突の衝撃を受けた。
分析	<p>A 船は、船長 A が G P S プロッター画面を見ていて、前方の見張りを適切に行っていなかったことから、漂泊中の B 船に気付かなかったものと考えられる。</p> <p>B 船は、船長 B が釣りに意識を集中し、周囲の見張りを行っていなかったことから、接近する A 船に気付かずに漂泊を続けたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、頭埼南東方沖において、A 船が南南西進中、B 船が漂泊中、船長 A が、前方の見張りを適切に行っておらず、また、船長 B が、周囲の見張りを行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。